

令和元年度 全国学力・学習状況調査 江津市の結果概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査の対象 小学校第6学年, 中学校第3学年

3. 調査実施日 平成31年4月18日(木)

4. 調査の内容

(1) 昨年度からの変更点

- ・A問題(知識)とB問題(活用)を分けずに実施
- ・中学校で英語調査を初めて実施

(2) 教科に関する調査

国語, 算数・数学, 英語はそれぞれ次の①と②を一体的に出題

①身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や, 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や, 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

5. 調査を実施した学校数・児童生徒数

- ・小学校 市内7校 176名
- ・中学校 市内4校 166名

II 教科に関する調査の結果

(1) 小学校

小学校	江津市	島根県	全国
国語	64	62	63.8
算数	66	65	66.6

差は見られない <math>< \pm 2</math>
 やや下回る(上回る) $\pm 2 \leq < \pm 3</math>
 下回る(上回る) $\pm 3 \leq < \pm 4</math>
 大きく下回る(上回る) $\leq \pm 4$$$

〈○:強み △:弱み 全国:各教科における全国平均正答率〉

国語	<p>・「読むこと」の領域では、全国をやや上回った。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、全国と差は見られなかった。</p> <p>○目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むことや、文章の内容を的確に押さえ自分の考えを明確にしながらか読むことはよくできている。</p> <p>○情報を相手にわかりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることは全国をやや上回った。</p> <p>△目的や意図に応じて、質問を工夫したり、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書いたりすることに課題がある。</p>
算数	<p>・すべての領域について、全国と差は見られなかった。</p> <p>○棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることや、台形の性質について理解することはよくできている。</p> <p>△示された除法の式の意味を理解したり、示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し運用したりすることに課題がある。</p> <p>△示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述することに課題がある。</p>

(2) 中学校

中学校	江津市	島根県	全国
国語	72	73	72.8
数学	54	57	59.8
英語	50	53	56.0

差は見られない < ± 2
 やや下回る (上回る) ± 2 ≦ < ± 3
 下回る (上回る) ± 3 ≦ < ± 4
 大きく下回る (上回る) ≦ ± 4

国語	<p>・すべての領域で、全国と差はなかった。</p> <p>○文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことや、話し合いの話題や方向を捉えることについて、全国を大きく上回った。</p> <p>○書いた文章を読み返し、話の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討したり、伝えたい事柄について根拠を明確にして書いたりすることはよくできている。</p> <p>△文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えたり、相手にわかりやすく伝わる表現について理解したりすることは全国を大きく下回った。</p>
数学	<p>・すべての領域で、全国を大きく下回った。高正答率者が全国・県と比較して少なく、低正答率者が全国・県と比較して多かった。</p> <p>△数量の関係や法則などを事象に即して解釈し、数学的に説明することに課題がある。</p> <p>△短答式・記述式の正答率が低い。また、無解答率も高い。</p>
英語	<p>・「読むこと」の領域では、全国平均並みであったが、「聞くこと」「書くこと」では、全国平均を大きく下回った。</p> <p>○日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を正確に読み取ることができている。</p> <p>△与えられたテーマについて、自分の考えをまとまりのある文章で書くことや、聞いて把握した内容について、自分の考えを書くという複数の領域を統合して活用することに課題がある。</p>

Ⅲ 児童生徒質問紙・学校質問紙調査(意識調査)

(1) 学校生活・自尊感情・自己有用感に関わること

○「自分には良いところがあると思う」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」「学校に行くのは楽しいと思う」児童生徒の割合は全国を上回っている。

(2) 地域や家庭等に関わること

① 地域や社会とのかかわり

○「今住んでいる地域の行事に参加している」児童生徒の割合は全国を上回っている。

△「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」児童生徒の割合は全国を下回っている。

○「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている」小中学校の割合は全国を大きく上回っている。

② 家庭学習

○「家で計画を立てて勉強をしている」中学校3年生の割合は全国を大きく上回っている。

△学校の授業時間以外に平日1時間以上勉強する中学校3年生の割合について、全国を大きく下回っている。

○「家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った(教科共通)」学校の割合は小中とも全国を大きく上回っている。

③ 読書について

○「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために学校図書館・学校図書室や地域の図書館に週1回以上行く」児童生徒の割合が全国を大きく上回った。

○「学校の授業時間以外に、平日1日当たり30分以上読書をしている」小学校6年生の割合が、全国を大きく上回っている。

(3)「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善について

- 「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という児童生徒の割合が全国を上回っている。
- 「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う」「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う」小学校6年生の割合は全国を上回っている。
- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う」中学校3年生の割合は全国を大きく上回っている。
- △「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」児童生徒の割合は全国を下回っている。
- △「授業で学んだことを他の学習に生かしている」児童生徒の割合は全国を大きく下回っている。

IV 今後の対応

- ◇「授業改善アクションプラン」に基づいた主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を継続して推進し、学力育成サイクルプランの更なる充実を図る。
- ◇指導者が各教科等の授業・単元の目標やねらいを明確に示すとともに、児童生徒が見通しを立て、主体的に学習活動に取り組み、振り返るという学習過程において、言語活動を計画的に取り入れる。
- ◇児童生徒の学習状況の改善を図るため、以下の取組を継続して行う
 - (1)家庭学習について、時間確保と内容の充実、学習への意欲向上を図るために、学校での学びと関連した課題を取り入れたり、学習プリント配信システムを活用したり、家庭学習の意義を明確に伝えたりするなど、家庭と連携した取組を一層すすめる。
 - (2)江津市独自の問題
 - 学力調査結果の課題を踏まえ、小学校算数のフォローアッププリントを作成する。授業・家庭学習で活用できるよう各学校に提供し、学力育成の一助とする。
- ◇小中国語に関して、読解力育成事業の推進等により、自分の考えをまとめる力、書く力、伝える力をさらに伸ばす。学校図書館活用教育研究事業指定校(渡津小)の公開授業・協議に市内教職員も参加し、情報活用能力の育成の指導について研修を深める。
- ◇児童生徒の地域への愛着や貢献意欲を高めるために、今後も「江津市ふるさと・キャリア教育」の推進を継続する。